

地区だより

…………… 令和4年8月1日発行

まつかわ

<地区人口と世帯数>

男 7,630人 女 7,313人
計 14,943人
世帯数：6,635世帯
(7月1日現在)

2022

8月号

松川支所からのお知らせ

【編集発行】

福島市役所松川支所
〒960-1241 福島市松川町字杉内33番地
☎567-2111 ☒537-2298

消防表彰おめでとうございます

令和4年度の福島県、福島県消防協会、福島県消防協会福島支部の消防表彰が発表されました。長年、地域の安全・安心のため尽力され受章されました皆様、おめでとうございます。これからも市民のため、地域の消防・防災活動に期待します。

●福島県消防表彰(表彰日 令和4年6月4日)

【精勤章】第29分団松川 小林 義弘 様
【永年勤続章】第29分団松川 小川 浩一様、丹治 了寿様、植木 貴昭様
第30分団金谷川 半沢 力藏様 第31分団水原 丹野 友好様

●日本消防協会定例表彰(表彰日 令和4年3月4日)

【勤続章】第29分団松川 酒田 五郎 様

●福島県消防協会定例表彰(表彰日 令和4年6月4日)

【精勤章】第29分団松川 齋藤 弘昭様、阿部 孝司様、
齋藤 孝幸様
第31分団水原 丹治 勝広様、村上 芳夫様
第32分団下川崎 安齋 弘幸様

●福島県消防協会福島支部長表彰(表彰日 令和4年7月2日)

【功績章】第29分団松川 大友 彰様、齋藤 悟様
第30分団金谷川 尾形 和人様、加藤 修次様
第31分団水原 丹野 友幸様、丹野 紀一様
第32分団下川崎 朝倉 健一様
【精勤章】第29分団松川 伊藤 主尚様、森口 和幸様、半沢 真司様、
古関 陽介様、中島 嘉隆様
第30分団金谷川 澤崎 真也様、長南 正義様
第31分団水原 茂木 宗一様、佐藤 敏晴様、加藤 義一様、
金澤 宏章様、丹野 竜太様
第32分団下川崎 阿部 直幸様、佐藤 仁史様、藍原 弘勝様



表彰式の様子

保健師からのお知らせ

【熱中症にご用心】

暑い日が続きますが体調はいかがですか？今回は、熱中症対策のポイントを確認しましょう。

- ①暑さを避ける ②喉が渇いていなくてもこまめに水分摂取 ③暑さに備えた体づくりと日頃からの健康管理
- ④屋外で距離がとれる場面ではマスクを外す

を声を掛け合いながら実施しましょう。また、熱中症の約半数が自宅で発生しています。

油断せず屋内でも対策をとみましょう。

【市民検診は受診しましたか？】

検診は自分の健康について振り返るチャンスです。松川地区は令和3年度の特設健診の受診率は43.1%で市内で3番目に高い受診率でした。メタボリックシンドローム該当者は21.0%で約5人に1人が該当していました。かかりつけ医で受診をして、健康づくりをすすめましょう。

また、町内会やサロンなどへ出前講座も行っていますのでお気軽にお問い合わせください。

問合せ先：福島市保健所 健康推進課地域保健第一係 松川地区担当 田川 菜摘
TEL 024-525-7674 FAX 024-525-5701



松川地区敬老会中止のお知らせ

令和4年度松川地区敬老会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止となりました。ご理解いただきますようお願いいたします。

なお、記念品を贈呈させていただく予定です。詳細については松川協議会だより第8号をご覧ください。



松川学習センターからのお知らせ

【編集】福島市松川学習センター
〒960-1241 福島市松川町字杉内33番地
☎567-2323/567-2390
☎567-2403

入門『古典講座』

古典になじみのない方でも、気軽にご参加いただけるやさしく、親しみやすい古典講座を開催します。
今回は「源氏物語」です。3回のコースとなりますが、1回だけの参加でも結構です。
この機会に古典にふれてみませんか。

- 日 時 8月22日(月)、29日(月)、9月5日(月)の
3回コース 午後1時30分～3時
- 場 所 松川学習センター 研修室1
- 対 象 どなたでも
- ☆内 容 「源氏物語」について学びます。

- 定 員 16名(先着順)
- 参加費 各回100円(保険代)
- 講 師 金澤 武男 先生
- 申込み 随時受付(松川学習センター窓口または電話で
お申し込みください。)



図書室からのお知らせ ☎567-2403

☆おひざにだっこの

おはなし会
対 象：3歳までの
お子さんとその保護者
日 時：8月4日(木)
午前10：30～

☆おはなしロケット

対 象：4歳以上～
小学生まで
日 時：8月6日(土)
午前10：30～
テーマ：「ジャンプ！」

8月の休室日

毎週火曜日・11日・31日

毎月24日はふくしま読書の日

8月24日(水)

開室時間：午前9時～午後7時

今月は「貸出2倍キャンペーン」開催！

貸出冊数が通常10冊のところ20冊になります。

この機会にぜひご利用ください。



移動図書館 しのぶ号巡回日程 8月は巡回なし

松川の歴史紹介

地元を知ろう！“面白いぞ”松川の歴史

松川町文化財保存会会員 加藤 一郎

⑥炭焼藤太が開発したという「黄金の山・松川鉱山」のはなし

源平合戦があり奥州平泉が栄えた頃、平沢村(現在の平石地区の一部)の炭焼藤太とその子吉治らが松川近在(松川、金谷川、平石など)の多くの金鉱を開発したと伝えられている。

吉治は、東北地方の広い範囲から集めた金を京都と平泉を往復して売買していた。義経を平泉に案内したという金売吉治のことである。

松川鉱山は、記録には文政年間(1818～1829)に八丁目銀山として開かれたとある。

その後、鉱山は繁栄と衰退を繰り返しながら大正時代に再開発され、鉱山はにぎわったという。搗鉱場(とうこうば)が古天神に建設され、松川鉱山から古天神までは鉱石をトロッコに入れて馬に曳かせて運んだ。採掘は手掘りから削岩機への移行期ではあったが、鉱夫をやった父親から聞いたという地域の方によると「腕・肩や胸など体中の筋肉が痛くて大変だった」そうである。

大正時代の不況により休山状態となったが、昭和8年に再開されると、鉱山に製錬場が建設され、毎月20キログラムの金と400キログラムの銀が産出される国内有数の鉱山となったのである。坑道からはベルトコンベアにより鉱石が道路を越えて南側の山腹に築かれた製錬場へ送られた。家の屋根より高いズリ山が築かれ、均して広場を作って運動会やレクリエーションの場所ともなった。鉱夫や作業員家族のアパートが何棟も建設され、500名を超える人々が暮らす大きな町が出現した。鉱山の最盛期は、昭和9年から14年頃であったが、その繁栄は昭和11年11月1日に誕生した松川町の町制施行への大きな原動力となったのである。

昭和18年、鉱山は国の施策により休山となった。戦後、再興を試みたが採算が取れず断念している。引き継いだ所有者は、高く大きなズリ山を処分するため、道路建設の裏込め材などに販売したと前述の方は話している。現在、朽ちた山神社や製錬場跡のコンクリートの遺構が茂みの中に見えるだけであるが、坑道が崩落して陥没した危険な箇所にはロープが張られている。

仲ノ内から板山方面や水原への道を両側の林を眺めながら通るとき、往時の活況に思いを馳せるのも良いのではないかと思う。

(「松川のあゆみ(福島市立松川小学校創立百周年記念誌)」に詳しく記されている。)



松川鉱山製錬場跡(写真：斎藤昭雄氏提供)